

令和2年度 指定管理者年度評価シート

1 基本情報

施設名称	大阪市立男女共同参画センター子育て活動支援館
施設所管課・担当	市民局ダイバーシティ推進室男女共同参画課(電話:06-6208-9156)
条例上の設置目的	男女共同参画社会の実現、子育て支援と男女共同参画を一体的に推進する拠点として、男女が社会の対等な構成員として社会のあらゆる分野における活動に参画し、個人として能力が発揮できるよう多面的な支援を行うことにより、男女共同参画社会の形成に寄与することを目的とする。
業務の概要	複合施設として他の施設との連携のもと、センター施設の管理・運営、男女共同参画社会の形成に関する情報の収集及び提供、男女共同参画社会の形成に関する講演会・講習会・研修会等の開催、相談事業、男女共同参画社会の形成と子育て支援に関する啓発、子育て支援に関する人材育成のための講習会、研修等の開催、その他市長が必要と認める事業
成果指標	講座受講者数 / 講座受講者満足度 / 情報・図書コーナー利用者数
数値目標	2,200人以上 / 80%以上 / 2,200人以上
指定管理者名	大阪市男女共同参画推進事業体(北) 一般財団法人 大阪市男女共同参画のまち創生協会(代表者) グローブシップ株式会社(構成員)
指定期間	令和2年4月1日 ~ 令和7年3月31日
評価対象期間	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日

2 管理運営の成果・実績

成果指標	講座受講者数	講座受講者満足度	情報・図書コーナー利用者数
数値目標	2,200人以上	80%以上	2,200人以上
年度実績	1,062人	96.95%	1,365人
達成率	48.3%	121.2%	62.0%

利用状況

	当年度	前年度	前年度比
利用人数	14,344	48,760	-34,416
稼働率	—	—	—

3 収支状況

収入		当年度	前年度	差異(実績-計画)	主な要因
業務代行料	実績	118,440,328	114,395,760	-714,672	新型コロナウイルス感染症にかかる当初事業数見直し(削減)
	計画	119,155,000	114,075,000		
利用料金収入	実績	0	0	0	
	計画	0	0		
その他収入 (自主事業収入)	実績	259,800	0	-1,762,200	新型コロナウイルス感染症にかかる自主事業(自主講座)実施の中止
	計画	2,022,000	0		
合計	実績	118,700,128	114,395,760	-2,476,872	
	計画	121,177,000	114,075,000		

支出		当年度	前年度	差異(実績-計画)	主な要因
人件費	実績	54,156,012	60,954,815	-3,243,988	当初計画と比して一人あたりの単価が減少
	計画	57,400,000	51,229,000		
物件費	実績	58,936,009	63,598,718	-2,818,991	新型コロナウイルス感染症にかかる当初事業数見直し(削減)
	計画	61,755,000	62,846,000		
その他事業費 (自主事業支出)	実績	474,248	0	-1,547,752	新型コロナウイルス感染症にかかる自主事業(自主講座)実施の中止
	計画	2,022,000	0		
合計	実績	113,566,269	124,553,533	-7,610,731	
	計画	121,177,000	114,075,000		

令和2年度 指定管理者年度評価シート

4 管理運営状況の評価(1次評価)

(1) 成果指標の達成

評価項目	達成率	評価	特記事項
講座受講者数	48.3%	—	新型コロナウイルス感染症にかかる実施回数減、定員規制による影響
講座受講者満足度	121.2%	S	
情報・図書コーナー利用者数	62.0%	—	新型コロナウイルス感染症にかかる臨時休館等による影響

(2) 管理運営の履行状況

評価項目	評価	特記事項
施設の設置目的の達成及びサービスの向上		
施設の管理運営	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の対策として、一般的なマスク着用、消毒液の設置のほか、保育室にオゾンエアクリア(吸引空気清浄機能・オゾン燻蒸機能)を導入する等、柔軟な対応に努めたことは評価できる。 ・また、臨時休館や供用時間の短縮などにおいて、臨機応変に対応し、利用者に対して迅速に連絡・説明を行うなど、混乱をきたすことなく施設運営に努めたことは評価できる。
事業計画の実施状況	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による影響で、従来実施してきた対面式だけでなく、オンラインを活用したセミナーを開催することで継続した学習機会を提供したことは評価できる。 ・保育室開放事業についても、新型コロナウイルス感染症にかかる対応策として、事前予約制を導入するとともに従来よりも定員数を大幅に制限するなど臨機応変に対応を行った。 ・児童福祉月間の取組みとして、動画制作するとともにYouTubeで配信するといった新規展開を行った。 ・ファミリー・サポート・センター事業の提供会員養成講座について、新型コロナウイルス感染症の影響がある中、4クールすべて実施できるよう時期を変更するなど、臨機応変に対応した。 ・今後も新型コロナウイルス感染症による影響が予想されることもあり、従来、蓄積してきた手法やノウハウについても柔軟に活用してもらいたい。
施設の有効利用	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室開放デーのひとつとして新たに「ベビママサロン」を展開し、サロン形式の学びと相談の場を設定し、多くの応募があった。 ・各区子ども・子育てプラザの担当者等別に連絡会、研修会等を実施し、また地域課題に応じた内容で共催講座・研修を実施した。特に、新型コロナウイルス感染症にかかる対策として、オンライン講座の実施、集合視聴の場の提供など実施した。 ・大阪市ファミリー・サポートセンターの本部業務として、地域子育て活動者研修や子育て支援ボランティアの養成なども行うとともに、従来どおり活動についての助言、困難な事例、トラブル等の対応など実施するとともに、新たに新型コロナ感染が発生した際の情報収集やアドバイスについても実施した。

令和2年度 指定管理者年度評価シート

社会的責任・市の施策との整合性	B	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の削減やリサイクルの推進等、環境に対する一定の取組みが実施されるとともに、採光の有効利用による消灯の拡大など、省エネルギーの推進に努めた。 ・また、大学生を対象にインターンシップを受け入れ、従来の実習体験だけでなく、新型コロナウイルス感染症にかかる影響でのオンラインによる受け入れを行うなど、工夫を凝らした取組みを実施した。 ・前年度2月末からの新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応についても、本市との調整・協議を行い、利用者への影響を最低限に抑えるよう対応の検討を重ね、適切な対応が行われたことは高く評価できる。
-----------------	---	--

(3) 市費の縮減(節減努力・収支改善に向けた取組)

市費の縮減に係る取組状況	評価	特記事項
<ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギーの推進に努め、光熱水費の縮減を図った。 ・ロビーを活用した子育て支援情報の提供など、施設機能を活かしながら、職員がコーディネート等を行い、施設・事業運営の一体化や効率化を図った。 ・設備維持管理業務について、施設運営と保守業務の専門性を持つ事業体構成員の強みを活かして、効果的で効率的な維持管理を行った 	-	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者サービスの向上に努めつつ、限られた予算の範囲内で多様な事業が実施できるよう経費削減に努め、経費を抑えながら効用を最大化する施設・事業運営を行った。

5 利用者ニーズ・満足度等

【令和2年度実績】	
受講者満足度 (1) 95.0% (男女共同参画セミナー)	(2) 98.9% (子育て支援講座)
【参考：令和元年度実績】	
受講者満足度 (1) 99.2% (男女共同参画セミナー)	(2) 98.2% (子育て支援講座)
<ul style="list-style-type: none"> ・学識有識者を委員としたクレオ大阪子育て館運営委員会を開催し、幅広く意見や助言を聴取した。 	

6 外部専門家意見

<ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画、子育て支援の拠点施設として多岐にわたるプログラムを実施しており評価できる。 ・特に、緊急事態宣言下、プレママ・プレパパ講座をプレパパの参加のみとしたことで、パパ同士のつながりが生まれたことは評価できる。引き続き、男親(男性)同士のつながりを構築できる事業の展開に期待する。 ・また、新型コロナウイルス感染症の影響により、自宅での子育ての時間が増加傾向にあることから、親子を対象にしたプログラムは意義がある。保護者の負担軽減となるような子どもたち同士の遊びもプログラムに取り入れる等、引き続き工夫して事業実施してもらいたい。 ・今後、より一層の若年層の施設利用促進や事業参画のためにも、若年者を運営委員とするなど、子育て世代といった若年層の意見が反映できるよう工夫してもらいたい。 ・オンライン研修についてはリアルタイムのみならず、オンデマンド方式についても検討するとともに、従来の手法に捉われないことなく対話型など様々な手法の導入について検討してもらいたい。 ・ファミリーサポートの年代別会員数について提供会員の年代が高いように感じることから、現役世代に参加してもらいやすい工夫を継続して実施するとともに、新たな手法についても検討し、取り組んでもらいたい。

令和2年度 指定管理者年度評価シート

7 最終評価

評価項目	評価	所見				
成果指標の達成	S	<ul style="list-style-type: none"> ・講座受講者の満足度は、目標を大きく上回っている。(なお、新型コロナウイルス感染症による影響がある事項は年度評価の対象外とする) 				
管理運営の履行状況 <table border="1" data-bbox="279 617 932 1353" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td data-bbox="279 617 932 804">施設の設置目的の達成及びサービスの向上</td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 804 932 988">施設の管理運営</td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 988 932 1172">事業計画の実施状況</td> </tr> <tr> <td data-bbox="279 1172 932 1353">施設の有効利用</td> </tr> </table> 社会的責任・市の施策との整合性	施設の設置目的の達成及びサービスの向上	施設の管理運営	事業計画の実施状況	施設の有効利用	B+	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の対策として、職員による消毒実施等の一般的な対策のほか、保育室にオゾンエアクリア(吸引空気清浄機能・オゾン燻蒸機能)を導入するといったハード面の整備を行うとともに、利用者に対して迅速に連絡・説明を行うことで混乱をきたすことなく施設運営を行った。 ・また、従来実施してきた対面式だけでなく、オンラインを活用したセミナーの開催や、ファミリー・サポート・センター事業の提供会員養成講座について4クールすべて実施できるよう時期を変更するなど、新型コロナウイルス感染症による影響を踏まえ、適切に対応した。 ・さらに、大阪市ファミリー・サポート・センターの本部業務として、地域子育て活動者研修や子育て支援ボランティアの養成、活動についての助言、困難な事例、トラブル等の対応などの従来の業務に加え、新たに新型コロナウイルスの感染者が発生した際の情報収集やアドバイスも行った。 ・令和元年度2月末からの新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応についても、本市との調整・協議を行い、利用者への影響が最低限に抑えられるよう検討を重ね、適切な対応が行われたことは評価できる。
施設の設置目的の達成及びサービスの向上						
施設の管理運営						
事業計画の実施状況						
施設の有効利用						
市費の縮減(節減努力・収支改善に向けた取組)	-	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症による影響があることから、当該項目については評価対象外とする。 				
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「大阪市男女共同参画推進条例」や「第2次大阪市男女きらめき計画」「大阪市こども・子育て支援計画」の趣旨・目的を踏まえ、多岐にわたるプログラムを実施し、オンライン事業の実施など新型コロナウイルス感染症に対しても適切に対応するなど、男女共同参画拠点施設、子育て支援拠点施設、都市型センターという3つの機能を果たしている。引き続き、これらの機能を積極的に活かした事業を展開することが望まれる。 ・令和3年度においても新型コロナウイルス感染症による影響が出ており今後も続くことが予想されることから、年間事業計画を柔軟に見直すとともに、オンライン上での対話型セミナーなど、このような状況下でも実施可能であり、かつ効果的な事業展開を行ってほしい。 ・また、各区子ども・子育てプラザをはじめとした子育て支援機関に対して、各区の実情に応じた後方支援が実施されていることから、次年度以降もより効果的なものとなるよう期待しており、ファミリー・サポート・センターに関する事項についても中核としての機能を果たしてほしい。 ・今後もクレオ大阪5館全体で情報共有を行い、今後もその役割を更に高め、引き続き、高い利用者満足度を維持するよう期待したい。 				